

夕張を110年見守る松を手入れ



10月16日
オンコを移植 (2p記事)

10月23日 大教会の大赤松の剪定ひのきしん (4p記事)

ひきよせ

発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029
北海道岩見沢市9条西6丁目
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com

ホームページ
bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします

新会長より

このところ、大教会境内地には色々と変化がありました。教務支庁からは祖母三十乃奥様ゆかりのオンコが新たに大教会裏庭へお引越。またこの冬、道ゆく人が木の枝からの雪落被害にあわないように、神殿正面の大きな赤松を始め大規模な剪定作業が有志の方々によって行われ、景観もスッキリとしました。歴史を見つめてきたこれらの木々達に、私は時々祖父の姿が重なることがあります。祖父増平会長が出直された時、私は小学一年生。ほとんどお話をした記憶も無く、覚えているのは木の剪定をしている背中、クレヨンで絵を描いていた背中、そして市立病院でベッドに寝て目を瞑ったままのお顔。今でも時々恋しく思うのですが、祖父の声も思いつきません。もしも祖父がもう少し長く生きてくれたら、どんな話を聞かせてくれたらどうか。今の自分は祖父の御霊様からどう見えているのだらう。喜んでくれているかな。

お知らせ

月次祭

12月15日(水) 9時30分 開扉献饌

祭典の様子を配信します 上記QRコードから
ライン友達登録をしてお名前を送信下さい

最後に、昭和60年前後に書かれた、祖父の短い文章をご紹介します。戦争で苦勞してきた祖父の語りかける言葉は、緩みがちな自分をいつも諫め、激励してくれます(以下、原文まま)。

若々しい緑が山野を埋めつくし 力強い生命の鼓動が響いてくる

若さは先ず純粹であり 力であり 勢いであり 失敗を恐れない実行力である と思う

変革の時代は常に青年によって推進された

然し華々しさの陰に 時代の犠牲となり

雄図むなしくたおれた魂も また数知れないのだ

信仰は若さの故にこそ 厳しいまでの反省と

純粹なるが故にこそ 味わねばならぬ数々の折

烈しい自己鍛錬を伴う 自らの闘いであろう

マナイタグラの絶壁に挑んで

生命を断つて悔いのないのも 若い魂の故なれば 我々が又 虚名の華々しさを捨て おひながたを慕って 助け一条の とらえる術もない ぼうばくたる原野の 草を抜く様な一生に 自らを投じて 悔いのないのも また若さの故であろう!

教祖のおつけ下された 助け一条の道には 年令はない 二十才で もう七十才以上にも 老い込む人もあるかもしれない

「心一つが我がの理」と 仰せ下された様に 心の若さを失うなかれ

いざ 道の若人よ 教祖百年祭を 目指し

道のとうりようの後に 続くうではないか...

※雄図：壮大なはかりごと、大志。
※マナイタグラ：世界で最も多くの遭難者を出している三國山脈谷川岳の岸壁。
※虚名：実力以上の名声

秋季大祭の様

10月に入って、日に日に気温が下がるにつれて、山々や周りの木々が鮮やかに色付いて、人々の目を楽しませた。一方、コロナウイルスの感染状況は少し改善され、緊急事態宣言は解除、一時の緊張感は少し和らぎ、市井の生活も少しずつ落ち着きを見せてきた。

迎えた大祭当日、朝の内は少し雨模様であったが、参拝者が集まる頃には止んでいた。少しひやりと秋の空気を感じる中、秋季大祭は執り行われた。

9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。それから座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。いつものようにマスクを着用し、換気をしての祭典であったが、参拝者は大祭に集うことのできる喜びを胸に、勇んだ表情で参拝していた。

講話には大教会長が立ち「この後、婦人会では母親講座があるようです。大教会を使って頂ける事にありがたみを感じるようになりましね。

夕張の写真集が完成いたしました。『夕張の道 写真集』創立から令和3年までを見る』というタイトルです。先輩先生方が編纂して下さった、『夕張の



道 第一巻』というものがあります。私達の祖先がどのように通つてこられたかが載っています。

私達はその歩みを日々の道しるべとして通る事が出来ます。その後、『夕張の道 年譜・部内篇』が編纂され、この度の写真集にも『夕張の道』というタイトルを付けさせて頂きました。

これまででは文章において歴史を紡いできましたが、今度は写真にて夕張の歴史を振り返ろう、といったものになっています。私も見た事のない写真がたくさん載っています。夕張にとって記念すべき日や、今は亡き先輩方の若かりし頃の写真が多数分かります。説明と共に掲載されています。見ている内に、私もワクワクした楽しい気持ちになつていきました。私を含め、若い世代でも自分達のルーツと

いうものに興味がある人、実は多いです。各教会には一部ずつ贈呈させて頂きまず、ぜひ手に

取つてご覧いただきたいと思ひます。

写真集の初めのページを紹介させて頂きまずと、一番前には真柱様に創立百二十年の際に頂戴した『たすけ一条』というご揮毫を載せました。直近でのご揮毫下されたお言葉、今一番夕張にお望みになつている事と感じ、皆様にも今一度噛み締めて頂きたいと思う所です。

また、この場をお借りして、発刊にまで漕ぎつけて下さった方々に感謝したいと思ひます。教務史料部長・藤崎実先生をはじめとした、編集部の方々のお陰で無事完成いたしました。誠にありがとうございます(一同拍手)。

是非ともこの写真集はお家の宝物にしてくださいと思ひます。昔の写真を見て、家族や子ども達に、どうか昔の話をしてあげて下さい。その中で、ここに写っている先人達が、物の無い中でひたすら生きるのに必死だっただけではなく、そんな中でも人だすけをして通つてくれた、そのお陰で今の我々があるんだ、そういった話を少しでも伝えて頂けると幸いです。

今月は立教に縁のある、10月26日には本部で秋季大祭が執り行われます。元始まりの

時、親神様が夫婦の役目を作り、人間をこしらえた。その時の最初の母親の魂は、教祖の魂であり、初めに子どもを三度産み落とされた。その内に多く生まれた子どもの中で、それぞれがまた夫婦となつて子をなし、少しずつ多く、また複雑に多様な人間が生まれるようになっていった。そんな人間達の様子を見て、教えを伝える頃合いである、と感じた親神様は、教祖の身体に入り込んで、人間世界創造の真実と陽気ぐらしの生き方を子ども達に伝えて下さった。それが天保9年10月26日の事で、それからお道は183年、夕張は120年余り、その道程があつたから、今私達がここにこうやつているんだと思ひます。大祭の行われるこの月に、その事を今一度思い

返し、この写真集を手にとって、先人達の話、昔の話を、どうかご家族と共にして頂きたいと思ひます」と話された。

祭典後、食堂にて婦人会母親講座が開講され、会員は婦人会本部より送られてきた動画を揃つて視聴した。

オンコの木
教務支庁から
大教会に移植

三十乃奥様が教区婦人会主任を退任される際、オンコの大木を教務支庁に御供したいと願つておられたが惜しくも御出直しになられ、一年後の平成12(2000)年5月2日にひのきしんの手で清真布分教会から移植しご遺志に報いさせて頂いた。21年間教務支庁玄関横に青々と茂つていたが最近枯れ枝が目立つてきたので去る10月16日再生を願つて大教会客殿裏に移植した。千年も生きるオンコは一位、櫟とも呼ばれ教会や神社で齊員の尺板に用いられたりする。



10月15日 母親講座ビデオ視聴



大教会裏へ移植

修養科を修了して 宮本勝雄(馬追)

昨年7月に31年間務めた会社を退職し翌月の8月から住まいを東京から沖繩に移した。

沖繩に移住してからまだ私が就職していないことを知った姉から連絡があり、天理教の修養科を勧めてきた。

姉の話によると修養科とは3ヶ月の研修みたいなもので日曜日は休みだという。私は断る理由も見つからないので、旅行気分で行くことを決めた。

日曜日が休みであれば土曜日の午後からレンタカーを借りて他県へ行き泊まってくる。詰所には日曜日の夜に帰ってくる予定を3ヶ月組んだ。

6月25日午後天理駅に着き、10分程歩いて夕張詰所に到着した。早速、教養先生にこれからの修養科の流れやその他の説明を聞いた。

説明の中では日曜日も朝夕のおつとめがあります。

特別ひのきしんも日曜日はあると思います。と言う。私はおつとめの意味もわからず、ひのきしんという言葉は今まで聞いたことがなかった。コロナの影響もある所以他県に行けない事は理解した。そして私の大好き

なお酒も禁止……。私の予定はほとんど崩れていった。

私の家族は仏教、息子は僧侶、そのことを知っていて天理の修養科を勧める姉。きつとその3ヶ月で何かを感じ、これからの人生に役立つ何かを見つけたことが出来ると信じて前向きに取り組むことを決めた。

961期(77名) ㊶2組、㊷2組計4組。㊶1組は20名、20代の多いクラス。㊷2組は19名、40〜60代が多いクラス。私は58歳ですが、1組になってしまった。

1組のメンバーを見ての第一印象は・騒がしい・人の話を聞かない・話しかけても反応が薄い・外見がハデ。とにかくカラフルなメンバーが揃って、まるで動物園。出来ればこの組ではなく、2組に入りたかった。スタートから運が悪いなあと思いました。

感話という授業で一人ひとりが今までの経験や現在の事、修養科に入ったきっかけや理由、この3ヶ月の意気込み等を話すことになった。

一人ひとりの話を聞いていくうちに、皆に対して見る目が変わっていった。それぞれ自分の人生の悩みや苦しみがあり、今の生活から逃げたい、または変えたい、そして、この修養科の

中で答えやきっかけを見つけて帰りたい、という人が多かった。それを聞いて外見だけで判断していて申し訳ないという気持ちになった。

私も感話の授業で本音で話をするようになり、苦手な人、嫌いなタイプの人も話をするようになり、どんどんこのクラスが好きになっていった。

そして、このクラス全員が最後には、修養科に入ってよかった、このクラスで良かった。3ヶ月間本当に楽しかったと思えるように、取り組むことを決めた。そのためには、自分は何をすれば良いのか、何が出来るのか考えるようになり、クラス

の仲間や先生達と相談しながら進めることにした。

こと1組にこのメンバーが揃ったのも「いんねん」と感じた。結局、この20人がこのタイミングで、この場所で、出会うようになっただけです。

80代3名、60代1名、50代3名、40代1名、30代のメキシコ人が1名、20代11名、合計20名。

各年代層の人達がいて、健康な者もいれば、身上者もいる、車椅子を利用しての身体の不自由な人もいれば、常にネガティブで自分の不幸は全て人のせいにする人、警察にお世話になった人、それぞれユニークな人達の集まりですが、一人ひとりがクラスで良い役割をするよう

に見えてきた。時には問題行動を起こして衝突する場面もあったが、そのような時も周囲の者達が温かい心で注意したり、見守り、包み込んでいく事によって事態が納まった。

人へのやさしさ、人をたすける心がありながら行動に移せな

かった者も2〜3ヶ月目には積極的に動くようになり、それぞれ変わっていく姿が嬉しかった。

このクラスは1ヶ月生の時から目立つメンバーが多く最後の3期生になっても、他のクラスや先生たちから注目される組でした。

961期 入学77名、卒業66名。私達のクラスだけは誰一人欠けることなく、修了出来ました。

この3ヶ月、誰からも何事についても強制されることが無かったから、自分への甘えを捨て、何事に対しても自発的に、自主的に取り組むことが出来たと思つてます。

クラスではお互いの足りないところを補い合ったり、たすけ合ったりする大切さを知ることが出来ました。

詰所では、人のために尽くすことよって、本当の喜びがあることを知り、辛い時、苦しい時でも、感謝の気持ちを持つことを教えて頂きました。

姉の勧めから始まった修養科。この3ヶ月でたくさんの人達と出会うことが出来ました。天理教のことを全く知らない私を一から教えて下さった皆さん、本当にありがとうございます。



9月15日 宮本勝雄さん(中央)おさづけの理拝戴



新任教会長



北網分教会長
土屋知子氏

このたび、10月26日ご本部教祖殿にて、北網分教会七代会長に、土屋知子氏（六代会長・大西隆恵氏次女）が任命のお許しを戴かれました。

奉告祭は11月21日に執行。



修太君、はづきさん、
ご結婚おめでとう！

去る11月3日、清真布分教会後継者・渡部修太君は笠岡大教会所属、島根分教会の長女、門脇はづきさんと御本部の教祖殿にて、目出度く御結婚されました。お二人は天理大学の同級生。本部中庭で記念撮影の後には、大学の友人、修養科の同期など、たくさんの方達が祝福に駆けつけました。式後は親族のみで会食。会食中には、夕張に繋がる

駅前通り沿い樹木 大枝剪定ひのきしん

(表紙写真)

大教会の境内地、駅前通り沿いには桜や松などの樹木が植えられており、四季折々に花を咲かせ葉を色付かせて、道行く人の目を楽しませてきた。しかし定植から年月が経ち、手作業では剪定もままならない高さとなり、また歩道に被るように伸びた枝が豪雪で折れる危険性が高まっており、早急に処置をしなければならなくなっていた。

そこで去る10月23日、有志のひのきしん者10名が大教会に集まり、高く伸びた木の剪定ひのきしんに汗を流した。登るのにも容易でない高さとなった枝を切る為に、高所作業車を借用し、歩道には安全に配慮して係員を配置、歩行者に万一の事が無いように万全を期しての作業とな



った。

事故が無いようにじっくりと進めなければならず、また複雑に伸びた枝を適切な所で落とすため少しずつ角度を変え、作業車の位置を変え、と勇み心一つで捗る作業ではなかった。またリフト内で作業する者は言わずもがな、下で待機する者も作業の危険度を感じながらの数時間、常に緊張感を持つてのひのきしんに骨が折れた事であろう。しかしながら、少しずつつきりしていく木を見て、一同の心も晴れやかになっていった。朝から夕方までの作業で終了したが、この日切り落とした枝はトラック数台分にも及んだ。

庶務部 10月

- ▽教会長任命講習受講
土屋 知子（北網） 10・10～14
- ▽任命お運び
土屋 知子（北網） 10・26

▽をびや1件

▽詰所

- 教養掛
- 11月 藤田亮平（幌都）
- 12月 藤崎 勇（旭都）

大教会日誌抄10月

- 1日 たすけ推進会議、後会長、教務支庁会議へ
- 6日 会長、幌都分教会巡教
- 8日 会長、長沼分教会巡教
- 9日 会長、おちばへ
- 12日 会長、帰会
- 14日 大祭、準備
- 15日 秋季大祭
- 16日 教務支庁から大教会へ植木（オンコ）を移植
- 17日 会長夫妻、夕喜元分教会巡教
- 23日 会長、おちばへ
- 24日 会長、神殿当番
- 25日 婦人会、布団整理
- 26日 本部秋季大祭、遥拝式
- 27日 会長、かなめ会
- 28日 会長、帰会

写真集の編纂の後に 「庭木の剪定に寄せて」

史料部・藤崎 実

増平会長様の懐旧談を読んでいると、明治44年に岩見沢に移転して間もなく、空知農業学校（現岩見沢農業高校）の敷地ぐらりにポプラの木を植える事になったという。そこで残った苗木をもらい受け、南側に植えた。

客間の庭に残る朴（ほお）の木も、イチヨウも、門の左右の赤松も、皆カメノさんがどこからか苗木をもらって植えたという。そうすると、百十年から経っていることになる。

この度の剪定は門の左右の松も、30年ほど前に中右徳太郎先生が火事での焼け残りの枝を切つて以来の事。歩道を行く人に落雪でご迷惑をかけぬようにと、大鉦ならぬチェーンソーでの作業。思い切つて切つたらしいが、まだ樹相まで変える程ではなく、ホツと胸を撫で下ろした。これからも永く夕張の行く末を見守る木になってくれると感じた。植えて喜ぶ人と切つて喜ぶ人がいるが、私は植えて喜ぶ方だと思つた。



昭和40年代頃 赤松はすでに背丈は高い